

体験談レポート

ユーザー： K.U(40代・男性) 神奈川県
商品名： ニュウモラップ EX ジャケット
テスト日時： 2009年12月13日
アクティビティ： 登山(八ヶ岳)
テスト環境： 晴れ/曇り(-2)
当日のレイヤリング： (アウター)他社ハード・シェル(出発時のみ)、
(ミッドシェル)ニュウモラップ EX ジャケット (インナー)他社インナーシャツ、アンダーシャツ



~ニュウモラップの対応温度域の広さを実感した~

12月に入り、いよいよ本格的な冬山シーズン。

まずは半年振りの冬靴&アイゼン慣らし(?)ということで、八ヶ岳へ。

今回選んだコースは、西面の初級バリエーション・ルート、広河原沢中央稜から阿弥陀岳というルート。

既にここ数年で(アイスを除いて)東面、西面の人気アルパイン・ルートはほとんど登ってしまったが、ここはまだトレースしていない。

一昨日は荒れた天気だったが、気温が高かったため、標高の低い所では雨だったようだ。登山口周辺に雪はまったく無い。それでもしばらく林道を進むうち雪が現れ、ようやく冬山らしくなってくる。

広河原沢の二俣から少し右に入り、中央稜に取り付く。いきなり樹林帯の急な登り。トレースは無し。

雪面は中途半端なモナカ雪となっていて、一歩足を出すたびにとボコン!と踏み抜いてしまう。

フカフカの新雪にもがくほどではないが、体力を消耗し、単独ラッセルの身にはなかなか辛い登りが続く。

こうした場合、いくらマイナスの気温でも額から汗が流れることもあるが、今日はそんな不快感もない。

中間着として着ている「ニュウモラップ」のせいか、余分な身体の熱が内側にこもらない気がする。



二俣から二時間近く急な樹林帯の登りを終えると、ようやく展望が開け、中間部のハイライト、第一岩峰と第二岩峰となる。幸い天気も良く、風も僅かに吹く程度なので、それまで着ていたアウタージャケットを脱ぎ、「ニュウモラップ EX ジャケット」をアウターとして、以後行動する。

第一岩峰は右側から、第二岩峰が左側から岩壁の裾を回り込むようにして越え、ほんの少し急で細いリッジに上がる。ある程度慣れていて、状況さえ良ければロープなどまったくいらないが、こころ辺りが一応ルートの核心部となる。

高度も上がり、風はそれほど強くないとはいえ吹きさらしの状況だが、EXジャケットの「ウィンド・ストッパー」の生地は予想以上に耐風性があるようだ。

とにかく寒くもなければ暑くもない。外からの冷気は遮断して、ウェア内で体温をちょうど良い位置でキープしているような感覚である。行動途中に頻繁に着たり脱いだりできない冬のアルパイン・ルートでは何とも助かる利点である。やがて左手の御小屋尾根と合流し、最後の摩利支天の鎖場を慎重に越すと、阿弥陀岳頂上。

本日は他に登山者の姿も無く、阿弥陀岳の頂上は貸切状態。少し寂しい気もするが、誰にも気兼ねすることもなく、山頂でゆっくりくつろげるのは単独行の中でも最高に贅沢な時間だろう。そのまま30分近く山頂に留まり、行動食をとりながら回りの景色を堪能する。この日は北アルプスや中央・南アルプスはもちろん、雲海の向こうには富士山も頭を覗かせていた。結局、その間はEXジャケットを一番外側に着たままで、さらにもう一枚のアウターの出番はまるでなかった。

今回は冬山にしては天候に恵まれたこともあるが、予想以上にニュウモラップ・EXジャケットの温度対応域が広いことを実感した。夏の朝夕の防寒用から冬の間着まで、今後、山には手放せない一着である。

